

科目名	統計学	科目分類	□専門科目群 (第1グループ) ■総合科目群 (第2グループ)
			全学科 □必修 ■選択 学科 □必修 □選択
英文表記	Statistics	開講年次	■1年 ■2年 ■3年 ■4年
ふりがな	むらなか たかし	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	村中 孝司	修得単位	2単位
授業のテーマ	統計学の基礎と社会現象の定量的表現		
到達目標	統計学の有用性を理解し、統計学を自ら道具として使えるようにする。		
授業概要	社会現象を定量的に把握することは、経済学、法学を学ぶ諸君にとって必要なことです。この授業では、社会現象を把握するための統計学の基本的事項を学び、社会における統計情報を扱う実践的な勉強を行います。		
授業計画			
第1回	ガイダンス 社会現象を数量で表す		
第2回	社会現象を表すデータと統計① データの探索、母集団と標本		
第3回	社会現象を表すデータと統計② データの可視化		
第4回	データの分布と特徴① 度数分布表、ヒストグラム		
第5回	データの分布と特徴② 平均値、算術平均、相加・相乗平均、調和平均		
第6回	データの分布と特徴③ データの散らばりと分散、標準偏差		
第7回	データの分布と特徴④ 社会現象と正規分布		
第8回	統計的推定① 正規分布を用いたデータの特殊性、予想		
第9回	統計的推定② 仮説検定		
第10回	統計的推定③ 信頼区間		
第11回	データの比較① t検定、分散分析		
第12回	データの比較① グラフと表による表現		
第13回	データの関係① 散布図		
第14回	データの関係② 最小二乗法		
第15回	データの関係③ 相関と回帰		
第16回	定期試験		
授業時間外の学習	社会における統計情報をよく観察すること。予習1時間、復習1時間程度必要。また、社会現象の中の統計情報を自ら研究しておくこと(1時間程度)。特に、中央省庁や都道府県の統計資料の収集と観察を推奨する。		
履修条件 受講のルール	基礎数学Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。基礎数学Ⅰを理解していることを前提に授業を進める。適宜資料を配布しますが、欠席した学生には配布しません。		
テキスト	講義中に紹介する。		
参考文献・資料	小島寛之『統計学入門』ダイヤモンド社		
成績評価の方法	試験(60%)、レポート・課題提出・小テスト(40%) 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は、欠席扱いとします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。		

	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の理解、および予習復習が充分であることを確認するため、授業中に小テストを行います。 ・レポート課題は授業内又は掲示板で指示します。
オフィスアワー	火曜 14:40～16:10、水曜 14:40～16:10
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度以降入学者 秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下) ・平成 27 年度以前入学者 優(100～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)
学生へのメッセージ	社会現象の統計に強くなりましょう。